

Z313a 1788年10月の宇宙天気現象

服部健太郎，早川尚志（大阪大学），海老原祐輔（京都大学）

極端宇宙天気現象の発生頻度は非常に低いため，近代的な観測の開始以前にまで遡った研究が求められる．近代観測以前にあっては，中・低緯度地域におけるオーロラの同時観測記録が，このような極端宇宙天気現象の同定において，しばしば重要になる．

今回の報告では1788年10月の宇宙天気現象 [1] を検討する．本報告ではこの現象時のオーロラ記録を広くスペインから日本に至るまで報告し，その検討から低緯度側境界を復元し，この現象の規模を推定する．またこの現象を同時代の黒点記録と比較し，より長期の太陽活動中に位置付ける．

[1] Harrison, G., 2005, *Astron. Geophys.*, 46, 4.31.